

書き損じはがき4034枚

海星学院生徒会→室蘭ユネスコ協会へ贈る



立野会長らを囲み記念写真に収まる海星学院高生徒会

「1枚でも宝物」

室蘭市高砂町の海星学院高校生徒会(小松萌加会長)が18日、室蘭ユネスコ協会(立野了子会長)に書き損じはがき4034枚を贈った。小松会長は目録を読み上げた後、立野会長に「カンボジアの子どもたちに思いを届けてください」と目録を手渡した。(北川誠)

同校では2011年度(平成23年度)から毎年、生徒会が中心となって書き損じはがきを集めている。19年度の贈呈内容は書き損じはがきのほか、現金3万7540円、未使用切手4950円など。集めたはがき類はユネスコ協会に集められ、郵便局で切手に換金。企業が切手を購入することで現金化し、カンボジアの教育支援に充てる。

同校生徒会は、室蘭市内やその近隣のカトリック教会、モル工中島などに回収ボックスを設置。19年度からは中島町の生涯学習センターきらりん内にある市民活動支援センターもボックス設置に協力した。同校生徒会がこれまで回収したハガキは累計4万9307枚に上り、257万円以上を寄贈したことになる。18年度(2244枚)の2倍近い枚数が集まったことについて小松会長は「私たち生徒会以外にも、ポスター作りを協力してくれた一般生徒もいました。地域の方も書き損じはがきを持ってきてくれました。20年度も大きな結果を残せるよう努力したい」と意気込みを語った。